

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JA豊橋トマト集出荷施設	階数	地上2F
建設地	豊橋市野依町字南丸山	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	60 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,650 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年6月6日
敷地面積	9,316.74 m ²	作成者	君塚 喜三郎
建築面積	5,579.27 m ²	確認日	2014年6月11日
延床面積	9,403.91 m ²	確認者	君塚 喜三郎

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	83%
③上記+②以外の	83%
④上記+	83%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

音環境	2.7
温熱環境	2.9
光・視環境	3.1
空気質環境	4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	2.9
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	4.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	5.0
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	3.2
汚染物質回避	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化への配慮	3.6
地域環境への配慮	2.6
周辺環境への配慮	3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.1
JA豊橋トマト集出荷施設

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版
■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2011 (bpi&bei)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点		重み係数
Q 建築物の環境品質								3.0	
Q1 室内環境								3.2	
1 音環境									
1.1 騒音						2.7	0.15	-	2.7
1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	
2 設備騒音対策						3.0	1.00	3.0	-
1.2 遮音						1.8	0.40	-	
1 開口部遮音性能						1.0	0.60	3.0	-
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-
1.3 吸音						4.0	0.20	3.0	-
						壁・天井または床・壁の2箇所に吸音材を使用。内部仕上表A-15図			
2 温熱環境						2.9	0.35	-	2.9
2.1 室温制御						3.7	0.50	-	
1 室温						5.0	0.38	3.0	-
2 負荷変動・過渡制御性						-	-	-	-
3 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-
4 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-
5 温度・湿度制御						-	-	-	-
6 個別制御						-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-
8 監視システム						-	-	-	-
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-
3 光・視環境						3.1	0.25	-	3.1
3.1 屋光利用						3.6	0.30	-	
1 屋光率						4.0	0.60	3.0	-
2 方位別開口						-	-	3.0	-
3 屋光利用設備						3.0	0.40	3.0	-
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	
1 照度器具のグレア						-	-	-	-
2 屋光制御						3.0	1.00	3.0	-
3 映り込み対策						-	-	-	-
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	-
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-
						執務室(事務室)の屋光率計算による。別紙参照			
4 空気環境						4.1	0.25	-	4.1
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	
1 化学汚染物質						5.0	1.00	3.0	-
2 アスベスト対策						-	-	-	-
3 ダムカビ等						-	-	-	-
4 レジオネラ対策						-	-	-	-
4.2 換気						3.3	0.30	-	
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮						4.0	0.33	3.0	-
4 給気計画						-	-	-	-
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-
						建材はF☆☆☆☆以上全面的に使用し、VOCについても配慮した。			
						換気設備1.2階平面図(M-14図)参照			
Q2 サービス性能						-	0.30	-	3.3
1 機能性						2.9	0.40	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	3.0	-
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	3.0	-
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-
1.2 心理性・快適性						2.6	0.30	-	
1 広さ感・景観						4.0	0.33	3.0	-
2 リフレッシュスペース						3.0	0.33	-	-
3 内装計画						1.0	0.33	-	-
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-
3 衛生管理業務						-	-	-	-
2 耐用性・信頼性						3.0	0.31	-	3.0
2.1 耐震・免震						3.0	0.48	-	
1 耐震性						3.0	0.80	-	-
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.33	-	
1 躯体材料の耐用年数					②	3.0	0.23	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.15	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23	-	-

2.4 信頼性					3.4	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				4.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				4.0	0.20			
			②	系列化に加えて、節水タイプの設備機器を用いた。					
3 対応性・更新性					4.2	0.29			4.2
3.1 空間のゆとり					5.0	0.31			
1	階高のゆとり			階高は7mとした。(断面図、矩計図参照)	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ			別紙資料参照	5.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				5000N/m ² のゆとり。別紙構造計算書概要資料参照	5.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			
1	空調配管の更新性				3.0	0.17			
2	給排水管の更新性				3.0	0.17			
3	電気配線の更新性				3.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	0.11			
5	設備機器の更新性				3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.40			2.5
1 生物環境の保全と創出		●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●	④		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.4
LR1 エネルギー					-	0.40			3.8
1 建物の熱負荷抑制				PAL低減率=(450-215)×100/450=52.22%	5.0	0.01			5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.28			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				ERR換算値が50%	5.0	0.42			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					5.0				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.28			3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.3
1 水資源保護					3.4	0.15			3.4
1.1 節水				節水コマに加えて省水型機器(女子用は擬音付)を使用している。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.2	0.63			3.2
2.1	材料使用量の削減				3.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		3.0	0.21			
2.5	持続可能な森林から産出された木材				-	-			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体と仕上材が容易に分離可能	4.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.22			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				接着剤、シーリング材、防水材においてはF☆☆☆☆材を、また錆止めについてはJISK5674の鉛・クロムフリーを用いる。	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.0
1 地球温暖化への配慮			①	工場のCO ₂ 排出量が83%の為	3.6	0.33			3.6
2 地域環境への配慮					2.6	0.33			2.6
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	●		車種(大型搬出者、生産者車両、一般)、車の動線を考慮。配置図	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音	●			3.0	0.33			
2	振動	●			3.0	0.33			
3	悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				3.0	-			
3	日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目スコアシート
JA豊橋トマト集出荷施設

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.5_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 JA豊橋トマト集出荷施設

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>広くは無い敷地に生産者が搬入するトマトの荷受けスペース、またそのトマトを選別の上箱詰めする集出荷室(工場)、出荷のためのトラックヤードを効率的に配置した。またその管理を行う事務所部分をコンパクトにまとめた。補助金を受けての建設であり、また施設利用料金が生産者の利用料金に反映されることから必要最小限の設備を設置した。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>事務所部分は管理部門、職員の休憩空間から構成される。南側からの日照と、内部の熱損失を防ぐために断熱材+空気層の外壁構造とした。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>事務室は情報通信の中心と位置づけ、OAフロアを採用した。その他居室については広さに限りがあることから、天井高を確保することにより「ゆとり」ある空間を目指した。耐用性・信頼性においては最低限の基準値をクリアすることを考えながら、経済性に目を向けた。設備・電気については可能な限り系統化するとともに、レイアウトの更新性にも配慮した。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>畑地地域の中にあること、また敷地に限りがあることから、地域の環境に溶け込む事を中心に考えた。緑地については可能な限り設置を心掛けた。風の強い地域性により、低木と地被植物による緑化を考慮した。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>自然エネルギーの利用は経済的に困難であるため、建物の熱負荷を抑えることを考慮した。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>雨水の再利用は考えられなかったが、節水については心掛けた。汚染物質を含まないF☆☆☆☆、低VOC材料の利用に努めた。またフロン、ハロンガスの利用は行わない。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>温暖化、環境への配慮については標準レベルにある。切土を行った敷地条件と建物の高さを抑えたため風害、日影についての周辺への影響は少ない。光害についても南面は十分な空地(トラックヤード)があり、隣地に近い西側は型ガラスを設置することから発生しないものと考えられる。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>